

42. ホッケ *Pleurogrammus azonus* Jordan and Metz

図版17

英名 arabesque greenling

露名 южный однопёрый терпуг
ユージヌイ アドノヒョルイ テルプグ

地方名(北海道) ロウソクボッケ、ハルボッケ、ネボッケ、アオボッケ

漢字 鮨、蠟燭鮨、春鮨、根鮨
ほっけ ろうそくぼっけ はるぼっけ ねぼっけ

アイヌ語名 ニポウー、ニシポク

【形態】 体は細長い紡錘形で尾柄*は細い。尾びれは二股に分かれ、背びれはアイナメ類のように途中で深くくびれない。側線*は5本。体色は稚魚*期から若魚*期にかけては青色。未成魚*期から成魚*期にかけては背部が茶褐色から黄褐色のまだら模様、腹部は黄白色。雄の成魚は産卵期には青みがかった灰色になり、頭の背部と尾びれの先端が黒色になる婚姻色*がみられる。

よく似た種*に、同属*のキタノホッケ *Pleurogrammus monopterygius* がある。一般にシマボッケと呼ばれ、背部から腹部まで達する明瞭な暗色の横帯*があること、上から3番目と4番目の側線がホッケより短いことなどで区別できる。

【生態】 茨城県以北から千島列島周辺の北太平洋、対馬海峡以北の日本海、黄海、沿海地方、オホーツク海に分布する。これらは、次の4つの系群*に分けられると考えられている。オホーツク海から北海道北部日本海にかけての北部日本海～オホーツク海系群(道北群)、北海道南部日本海から北海道南部太平洋および本州北部沿岸域にかけての道南～本州系群(道南群)、えりも岬西

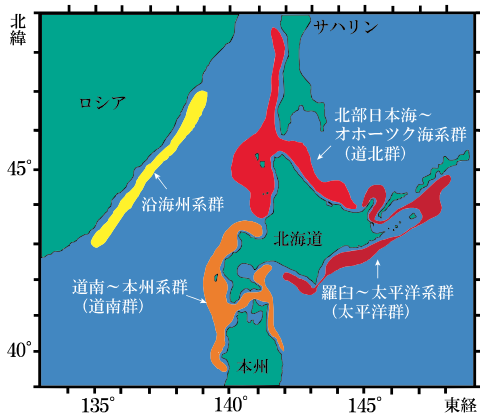
岸から南部千島、羅臼沿岸にかけての羅臼～太平洋系群(太平洋群)、沿海地方沿岸の沿海州系群である。

キタノホッケはホッケよりも寒冷な水域を好み、主にオホーツク海からベーリング海に分布する。北海道では主に釧路、根室、網走地方で漁獲されるが、ホッケに比べて極めて少ない。

ホッケの成魚は定着性が強いが、仔稚魚*期から未成

魚期にかけては比較的広範囲な回遊*をする。体長* 1～3 cm ごろは産卵場付近の沿岸に分布するが、しだいに沖合へ移動する。0歳の冬から夏にかけての体長 4～16cm ごろは表層で生活し、日本海では北海道とロシアとの間の中央水域に広く分布するが、6月以降には北方水域に移動する。この時期の稚魚は体色が青いことからアオボッケと呼ばれ、オホーツク海では北緯55度以南に広く分布する。

体長18～22cmになる0歳の夏から冬にかけて水深100m前後の大陸棚*上に移動して群れをつくるようになる。この時期のものを通称ロウソクボッケと呼ぶ。その後は、体長20～24cmとなった1歳の3～6月ごろには沿岸域に接岸し、盛んに餌をとる。この時期のものをハルボッケと呼ぶ。この時期を過ぎると再び沖合に移動し、大陸棚上の岩礁域に定着する。これがネボッケ



ホッケの系群 (入江、1983を改変)



キタノホッケ (体長34cm)



卵を保護する婚姻色の雄（小樽水族館にて撮影）

である。オホーツク海のロウソクボッケは、接岸とともに秋から冬に日本海へ移動する群れと、翌年の春までオホーツク海で過ごしてから日本海へ移動する群れとに分かれる。

産卵期は、北海道周辺では9月中旬から12月中旬ごろで、北で早く南で遅い。これは産卵の適水温に関係があるようで、産卵はいずれの海域でもほぼ水温15～17℃で始まり13℃前後で盛期となり、8～9℃になると終了する。産卵行動は、まず婚姻色を示した雄が産卵に適した所に「なわばり」をつくり、雌を誘い込むことで始まる。雌が4,000粒前後の卵を直径5 cmほどの塊として産み出すと、雄は卵塊*に腹部を接触させるように通過しつつ放精する。

産卵後、雌は卵塊を胸部、腹部を用いて岩のくぼみなどに押し込む。その後、雌はその場を離れるが雄はとどまり、近づくほかの魚を追い払って卵を保護する。さらに雄は卵塊に口を押し当てて海水を吹き付ける行動をする。これらの一連の卵保護行動は、道立稚内水試調査船北洋丸によって、武蔵堆*において水中ビデオカメラで観察されている。

このような産卵生態を持つため、産卵場所は堆*や沿岸域の岩礁地帯に限られる。主な産卵場は、日本海側では利尻島や礼文島沿岸、武蔵堆、積丹半島以南の日本海沿岸、太平洋側では恵山岬や鹿部沿岸および日高沿岸である。武蔵堆では水深12～50mに産卵場ができ、卵を保護する雄の密度は水深30m付近で高く、1尾当たりのなわばりの広さは約1 m²であった。

日本海では、早いものは生後満2年で産卵し、3年目にはほとんどのものが産卵する。一度産卵したものは卵巣内に産み残した残留卵を持つことが多

く、索餌^{さくじ}*期でも前年に産卵した魚であることが分かる。雌の抱卵*数は体長によって異なり3,200～3万5,000粒。雌は1産卵期に数回に分けて産卵する。受精からふ化までの日数は水温によって異なり、10°C前後では50～60日と考えられている。

成長は、オホーツク海と日本海の両海域と太平洋とでは異なる。前者では満2歳で体長26～28cm、満3歳で28～32cm、満4歳で31～34cm、後者ではこれより成長が良く、満2歳で27～32cm、満3歳で29～34cm、満4歳で33～36cmである。体長35cm前後までに大半は漁獲されるが、50cm程度まで成長し、寿命は7～8年と推定されている。

仔魚*期には主にカイアシ類*を、未成魚期にはヨコエビ類*を多く捕食する。岩礁周辺に定着するようになると、魚類、魚卵、イカ類、エビ類、ヨコエビ類、オキアミ類*など、さまざまな種類の動物を食べる。